

5 年ぶりのオーストラリア

堀 寿夫 H. Hori
(徳島県 阿南市)

私は、2012 年のケアンズ皆既日食以降、南天の素晴らしい星空が忘れられず、幾度となくオーストラリアを訪れ、そのたびに天体写真を撮影してきた。近年は例の流行り病の影響もあって、しばらく海外旅行を自粛していたが、今年になってようやく規制も全面解除となったことにより、「そろそろ・・・。」という気持ちが強くなっていった。

ところで、この流行り病の間、オーストラリア各都市への直行便が休止になったり、また、関空までの足として使ってきた徳島から関空への高速バスが大幅減便となったりして、渡豪環境もかなり悪い状況となっていた。しかし、2024 年より、さまざまな規制が徐々に解除となり、ジェットスター航空のおなじみケアンズ便の復活に加え、なんと同航空によるブリスベン便の就航まで始まったのである。

ブリスベンと言えば、2018 年にクイーンズランド州の最南部、バランディーンという田舎町にある「ツインスターゲストハウス & オブザーバトリー」に行ったときに降り立った地である。その時には直行便が無

かったことから、羽田発シンガポール経由で 20 時間ほどかけてブリスベンに入ったのだが、関空発の直行便なら 8 時間 30 分で到着する。加えてここは、宿泊所から 30 m ほど歩いたところに観測所が併設され、電源も自由に使えるので、電気が大量に必要な冷却カメラも持ち込み可能だ。このような理由で、今年はバランディーンに行くことに決めたのだった。

そうと決まれば、日程の検討である。私は役所の職員という立場上、議会や定期監査がある 6 月は長期不在にすることができないので、5 月か 7 月で新月期がいつか調べた。すると、2024 年は月の月上旬が新月期に当たっていたのだが、さすがに 5 月は飛行機代等が高くなる GW が被ることから、結局 7 月の 7 日～12 日で組むことにした。日程決定後、各方面に呼びかけたところ、大阪府池田市の井上英郎氏、徳島県在住で元中学校理科教員だった清水義久氏が手を挙げられ、私を含めたこの 3 人で行くことになったのである。早速ツインスターゲストハウス & オブザーバトリーに予約を入れ、フライトについては、うまいタイミングで 4 月にブリスベン便のセールがあったので即購入。40 kg の受託荷物等含めて、往復約 9 万円で手配することができた。また、続いてレンタカーも予約し、かくして私は 5 年ぶりのオーストラリア、また 6 年ぶりのバランディーンに向かう準備を進めていった。しかし、今回、ひとつ心配することがあった。それは急激な円安と、オーストラリアの物価高である。このダブルパンチで、おそらく旅行代金は結構高くなるだろうと思われた。飛行機代については 4 月に購入



滞在先のツインスターゲストハウス
& オブザーバトリー

していたことから、そのときのレートでよかったが、結局、円が一番安い時期の渡豪となり、1オーストラリアドル（以下AUD）が110円と、80円ほどだった前回2019年に比べ、かなりのAUD高になっていた。

そのような心配をしながら、7月7日の夜9時45分発の飛行機で関空を立ち、現地時間の翌8日の午前7時30分頃にブリスベンに到着。レンタカーを空港で受け取り午前10時ごろにバランディーンに向け出発した。途中、昼食と食料の買い出しをするため、ウォリックという町のスーパーに立ち寄ったのだが、早速、ここでオーストラリアの物価高に直面する。フードコート内にあるハンバーガー店でいわゆるセットメニューを注文したのだが、これが約15AUD、また夜食用のパン、スナック菓子、ミネラルウォーター、コーヒー、オレンジジュースなど日本ではコンビニで買っても1500円もあればおつりが来ると思われる品々が、全部でなんと約30AUDもかかったのだ。他には、ガソリン代はリッターあたり約2AUD、レンタカー代も5日間保険代込みで約900AUDとこれまでの渡豪で一番費用がかかった遠征となった。

さて、そんなこんなで午後4時前にバランディーンに到着し、チェックインを済ませた。シングルユース、4泊5日夕食付で480AUD、ここでも円安、物価高の影響は大きく、2018年に宿泊した時と比べると日本円換算で1.5倍ほどの値段になっていた。

ま、それでもそれなりに写真が撮れば、満足はできたものの、到着当日の天候はあいにくの雨、次の9日も激しい雨が一日降り、このまま滞在中ずっと天候が悪ければ、一体、何をしに来たのだろうと心配したのだが、ようやく滞在3日目の7月10日は朝から快晴。夜の撮影の期待も膨らんだ。日中は、景気づけに3人で近くにある「バランディーン・パブ」に行き、ステーキを食

した後、車で15分ほどのところにあるギラウィーン国立公園を2時間ほど散策した。この公園は花崗岩の奇岩群があることで知られ、微妙なバランスでそびえ立つバランシングロックや、自然が作ったグラニットアーチなど、地球のダイナミックさを感じることができる公園である。

その後、午後4時頃部屋に戻って、夜の撮影に備えて少し眠り、空がまだ明るい午後5時30分頃から機材を組み立て、フラットフレームの撮影の後、ある程度暗くなるのを待って極軸調整、ピント合わせやダークフレームの撮影をした後、準備万端で薄明の終了を待った。

ちなみに今回現地に持ち込んだ機材は、次のとおりである。架台は遠征用にM-gen3でオートガイドができるようカスタマイズしたケンコースカイメモRS、これにタカハシFS-60CB屈折鏡筒（レデューサー使用 $f = 255 \text{ mm}$ ）を載せ、冷却CMOSカメラZWO ASI2600MC Duoを遠征で初めて使用した。システム上、天体の自動導入はできないものの、カメラについては、ASIairを使ってiPadで制御したため、ずいぶん楽にピント合わせや構図決定など行うことができた。

撮影は今までの遠征では、ISO3200、一コマあたり3分露出を基本として行ってきたが、オートガイドの効果と、現地の空の暗さから、少し長めでも大丈夫だろうということで、ゲインを最大の300、露出5分



現地での撮影風景



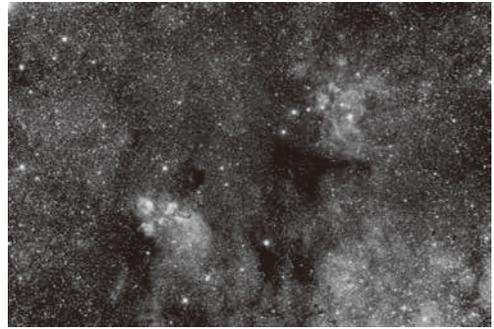
エータカリーナ星雲

×10コマをワンセットとして行った。撮影後に上がってきた画像を見ると、ピントやガイド、コントラストも申し分なく、処理後の画像が期待できるクオリティ。また、これまでの一眼デジカメによる14ビットのRAWファイルに比べ、冷却CMOSカメラはfit'sファイル16ビット。たった2ビットの違いとは言え、これで諧調が4倍違うのだから、これにコマ数を稼げば、コンポジット後の画像のクオリティもさらに上がるはずとワクワク感を持ちながら撮影を行った。ただ、夜半過ぎまでは順調に撮影ができたものの、朝方が近づくにつれ霧が発生し、予定していた大小マゼラン星雲などは、霧が薄くなるのを待っての撮影となり、結局、それぞれ10コマ程度しか使える画像を得ることができなかった。

ここは2018年に訪れた時もそうだったが、晴れていたとしても午前2時頃から霧が発生する傾向があり、クリアな空で明け



大マゼラン星雲



NGC6334 & NGC6357



オメガ星団

方の対象を撮るのは難しい。それでも複数夜晴ればコマ数を稼ぐこともできただろうが、結局一夜しか晴れず、他に持って行った一眼デジカメや、広角レンズたちは出番の無いまま、滞在期間の最終日を迎えることになってしまった。

最終日の7月11日の朝は霧も晴れて天気は快晴。不思議なことに、これまでのオーストラリア遠征では「最終日は晴れる」というジンクスがあり、今回も大きな期待をもっていた。ただ、いくら晴れたとしても、帰国便は翌12日午前11時40分のブリスベン空港発のフライト。レンタカーの返却や搭乗手続きを考えると、空港には少なくとも午前9時30分には到着しておきたいところだ。時間を逆算すると、バランディーンを午前6時には出発しなければならず、加えてそれまでに機材や荷物のパッキングをする必要があることや、その後の車の運転のことを考えると帰国前夜に徹夜での撮影は非常に危険である。そんな理由から最

終日は撮影せずに、ゆっくりと帰国準備をしようと思っていたのだが、一夜しか撮影できなかったことから、夜半までは撮影するつもりで機材は準備していた。しかし、朝には快晴だった空も、夕方から曇りはじめ、午後7時ころには完全に曇ってしまった。午後10時ころまで粘ったものの、撮影ができる空の状態になることはなく、結局機材を撤収。こうして今回のオーストラリア遠征は、消化不良のまま幕を下ろすことになったのである。

これまでのオーストラリア遠征では、ラッキーにも最低でも二夜が晴れ、写真撮影も順調にできていたのだが、今回は、撮影ができたのはたった一夜という結果となってしまった。そんな悔しさもあり、滞在最終日に、ツインスターのオーナーに相

談し、リベンジを果たすべく2025年5月22日～26日の4泊5日で予約を入れたのだった。月齢的には下弦過ぎから新月前夜になるものの、明け方の霧の発生のことを考えれば、この期間でも良いと判断した結果である。(もし、この日程で一緒に行きたい方がいれば大歓迎。なお、出発は5月21日の夜、関空発。)

※画像のデータや機材構成の詳細については、私のホームページ <http://ananscience.jp/australia/> を参照されたい。



書籍受領 (2024年9月～10月)

ご恵送くださった関係各位に御礼を申し上げます。[10月5日受領までを掲載@編集部]

- ・「月刊きたすばる」2024年10月号 (なよろ市立天文台)
- ・「月刊 星ナビ」2024年11月号 (アストローツ 星ナビ編集部)
- ・「月刊 天文ガイド」2024年11月号 (誠文堂新光社 天文ガイド編集部)
- ・「天体観測手帳2025」早水 勉著 (技術評論社 2024年9月27日発行 定価1,540円)
- ・「天文回報」No.987 2024年10月号 (日本流星研究会)
- ・「Mpc (メガパーセク)」No.207 2024年9月号 (みさと天文台友の会)
- ・「2023年度 鳥取市さじアストロパーク年報」第30号 (鳥取県鳥取市)
- ・「星のたより」2024年10月号 (鳥取市さじアストロパーク/佐治天文台)
- ・「TSA ニュース」2024年10月号 (鳥取天文協会)
- ・「星ぬイヤリ」2024年9月号 (NPO法人 八重山星の会)

賛助会員 (5法人のご協力に感謝いたします)

- 株式会社西村製作所 (滋賀県大津市山百合の丘 10-39 ☎ 077-598-3100)
- 協栄産業株式会社 (大阪府大阪市北区芝田 2-9-18 ☎ 06-6375-9701)
- コニカミノルタプラネタリウム株式会社 (東京都豊島区東池袋 3-1-3 ☎ 03-5985-1700)
- 学校法人松山学園 松山認定こども園星岡 (愛媛県松山市星岡 2-22-7 ☎ 089-958-2468)
- 株式会社エルデ光器 (富山県富山市月岡町 6-1338 ☎ 076-428-5253)